

海外および国内経済

海外の動向

ユーロ圏、マイナス成長に転じる

米国の1～3月期の実質GDP（確報値）は年率換算で前期比2.1%増と、改定値の同1.6%増から上方修正された。GDPにはマイナスに作用する輸入が大幅に下方修正されたことが、伸び率の押し上げに寄与した。

ユーロ圏の1～3月期の実質GDP（確報値）は年率換算で前期比0.9%減と、改定値の同0.6%増から下方修正された。アイルランドのGDPが多国籍企業の影響により大幅に下方修正されたことが影響した。

中国は、5月の主要経済統計で、鉱工業生産が前年比4.5%増と、前月の同4.1%増から拡大した一方、小売売上高は前年比0.6%減となり、2022年12月以来、3年5か月ぶりにマイナスに転じた。

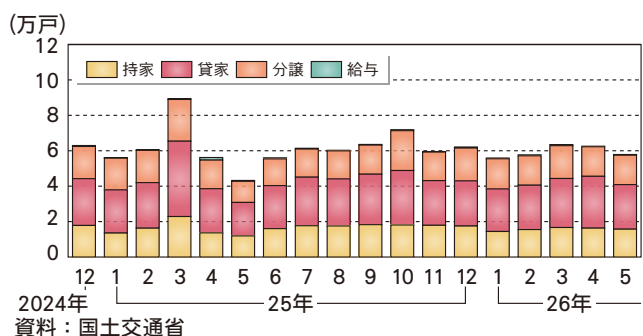
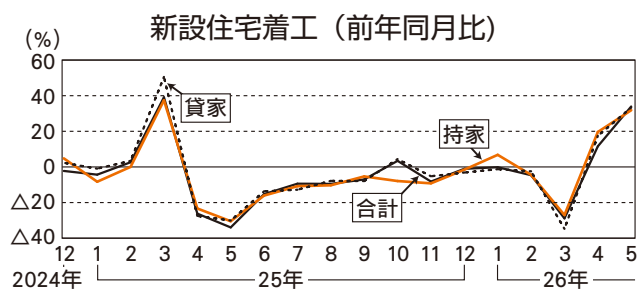
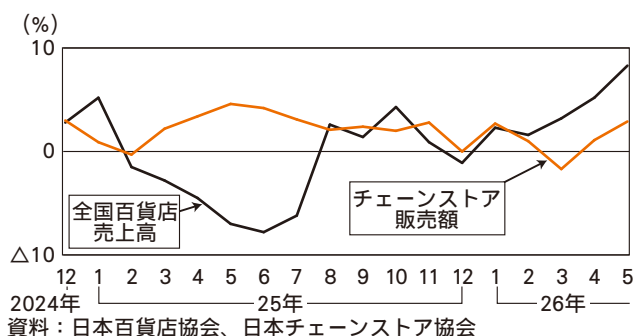
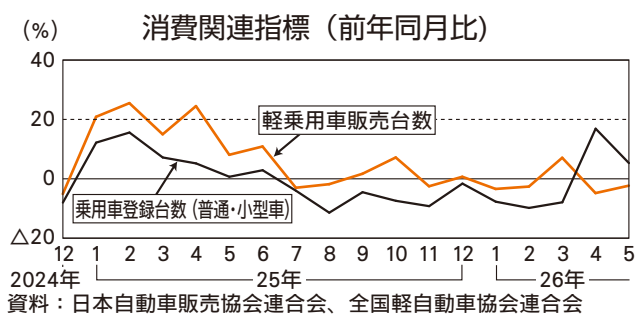
国内の動向

国内景気「緩やかに回復」維持

内閣府は6月の月例経済報告で、国内景気の基調判断を「緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある」に据え置いた。個別項目では、「個人消費」を「持ち直しの動きがみられる」に表現を2か月ぶりに変更し、中東情勢が幾分和らいだことを反映した。

一方、内閣府が発表した1～3月期の実質GDP（改定値）は年率換算で前期比1.8%増と、速報値の同2.1%増から下方修正された。設備投資が前期比0.3%増から同0.7%減とマイナスに転じた。省力化などへのソフトウェア投資や計測器などの生産用機械への投資が減った。

5月の有効求人倍率は前月比0.01ポイント低下の1.17倍、完全失業率は前月と同水準の2.5%だった。





百貨店売上は5か月連続で前年上回る

4月の家計調査（二人以上世帯）では、実質消費支出が前年比0.5%減と5か月連続で前年を下回った。コメや野菜・海藻など食料への支出が減少するなど、節約志向が続いている。

5月の販売関連の統計では、百貨店が前年比8.3%増と5か月連続で前年を上回り、スーパーも同2.9%増と2か月連続で前年を上回った。百貨店は、株高や円安等を背景に宝飾品などの高額商品が大きく伸長した。スーパーは、値上げによる店頭価格の上昇が販売額を押し上げた。

一方、乗用車は前年比5.3%増と2か月連続で前年を上回ったが、軽乗用車は同2.3%減と2か月連続で前年を下回った。乗用車は環境性能割が廃止され税負担減が寄与した一方、軽乗用車は売れ筋車種でモデルの長期化が影響した。

住宅着工は2か月連続で前年を上回る

5月の新設住宅着工戸数は前年比33.9%増の5万7,877戸と2か月連続で前年を上回った。持家が同31.8%増、貸家が同33.3%増、分譲住宅が同39.2%増となった。

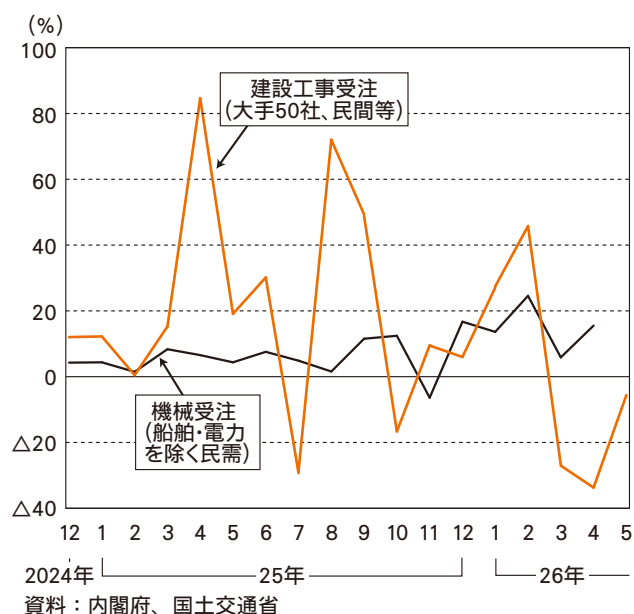
設備投資は「持ち直しの動き」を維持

4月の機械受注統計では、設備投資の先行指標となる「船舶・電力を除く民需」の受注額が1兆985億円、前月比8.7%増と2か月ぶりに増加した。製造業は、「造船業」「電気機械」などからの受注が増加し、同5.1%増と2か月ぶりに増加した。非製造業は、「運輸業・郵便業」「建設業」などからの受注が増加し、同6.7%増と2か月ぶりに増加した。月ごとのぶれを均した3か月移動平均は同3.7%増だった。内閣府は基調判断を「持ち直しの動きがみられる」に据え置いた。

鉱工業生産は「一進一退」続く

5月の鉱工業生産指数速報値は、前月比0.5%上昇の103.0だった。前月比上昇は2か月連続。全15業種中、「汎用・業務用機械工業」等8業種が前月より低下したものの、「輸送機械工業」「無機・有機化学工業」等7業種が前月より上昇した。先行き生産予測は、6月が前月比3.7%上昇、7月は同0.0%の横這い見込み。経産省は基調判断を「一進一退」に据え置いた。

機械受注、建設工事受注（前年同月比）



生産・出荷・在庫・在庫率
(季節調整済指数 2020年=100)

